

平成26年 5月27日

平成27年度におけるS I P次世代農林水産業創造技術の対応

ガバニングボードにおける平成26年度の評価結果等を踏まえ、本年度においては特に以下の点に留意して管理・運営を行う。

- 1 各分野のキーテクノロジーの開発を進めるとともに、コンソーシアム間の情報共有、技術連携を図り、より大枠、横断的な絵姿の構築に取り組むことにより、農林水産業の成長産業化に向けた全体的な戦略性を明確にする。
- 2 社会実装に際してのコスト目標の設定も視野に入れて、先進農家等の協力による実証試験、技術普及を担う公設試や商品供給を担う企業との密接な技術協力、共同研究等を進める。
- 3 各コンソーシアムにおける研究開発の進捗状況、市場ニーズ、生産現場ニーズを踏まえ、最終目標、出口戦略に向けた研究開発体制の集中・強化を図るため、研究開発を構成する要素技術の見極めを行う。
- 4 早期に実用化が見込める技術については、信頼性の高いデータを取得して社会実装を順次進めるとともに、積極的に研究成果の公表を行う。